

2001

グラフィックデザインで表現する「つながり」

Graphic Design for Relationship

AD 01 秋山 早希
指導教員 佐久間 善典

1.研究目的

本来人間にとって一番大切なものは何か。それはきっと「人と人とのつながり」だろう。温かくて、優しく、時には厳しい、そんな「つながり」は今、薄れている。だから、「人と人とのつながり」の大切さを思い出させる何かを作ろうと考えた。

2.調査と分析

どれだけ人とふれあうことが減っているのかを調べたところ、携帯電話やインターネットの普及により、直接人と「会う」という行為が減っていることが分かった。また、中高生で携帯メールばかりをしている人は、家庭内でのコミュニケーションが少ないということも分かった。

それは、間接的なふれあいが多くなっているということ、つまり、直接人と関わることから遠ざかっているという傾向が見られる。

3.コンセプトの立案

多くの人が目にする機会の多い、ポスターを制作する。人あるいは人をイメージさせるものをメインのビジュアルにし、見る人が身近に感じられるものとする。

4.デザイン展開

「人と人とのつながり」をテーマとしたキャンペーンを想定し、「家族」「友達」「地域」の3つの要素で構成する。その理由は、自分の近い範囲のものから、もっと「つながり」を深めるべきだと思ったからである。

キャンペーンなので、3つのポスターそれぞれのレイアウトには統一感を持たせる。

「つながり」を表すものとして“虹”を大きく用いた。虹の形は本来は円であるが、地平線があるから半分しか見えない。つまり「見ることは出来ないが、実はつながっている」ということを「人と人とのつながり」の象徴として表現した。

また、目で見えてわかる「つながり」として、握手や手をつないでいる写真も使用した。

5.完成図



6.結論

3つのポスターとも、カラフルでグラフィカルな出来上がりになったと思う。「人と人とのつながり」が伝わったかという検証をしたところ、10代・20代の若者には伝わるという意見が多かったが、お年寄りからは「よく解らない」という意見もあった。

グラフィックデザインは、人それぞれ好みがあると思うので、全ての人が共感できるものを作るのは難しいと感じた。世代を越えて受け入れてもらえるものはどういふものなのか、今後もリサーチする必要がある。

7.参考文献

NHKニュース(<http://www3.nhk.or.jp/news/>)
虹色実験室(<http://www.nijilab.com>)